

令和2(2020)年度卓越大学院プログラム審査結果【採択】

卓越大学院プログラム委員会における審査の結果、貴大学から申請のありました下記プログラムが採択されました。

| | | | |
|----------|----------------------------|---------------|-------|
| 機関名 | 京都大学 | 番号 | 2026 |
| プログラム名称 | 社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム | | |
| プログラム責任者 | 北野 正雄 | プログラムコーディネーター | 原田 博司 |

(採択後公表)

[採択理由]

本プログラムは、プラットフォーム構築における実践的な知識・学問の基本を、情報学と情報学以外の学問が持つそれぞれの側面を「文理混在型」で融合させることで、新学問領域である「プラットフォーム学」を確立し、世界で台頭するプラットフォームに対抗・超越する次世代人材の育成を目指すものである。

専門領域に閉じて膨大なデータを活用ができていない我が国の現状を打開するために、各領域のビッグデータを横断化し、既存のプラットフォームの概念を超越したプラットフォームを基盤構築することができる高度な人材を育成する新学術である「プラットフォーム学」を、文理融合分野を網羅した観点からワンストップで新たに構築しようとする意欲的なプログラムであり、他にない卓越性があると評価できる。京都大学が持つ農学、医学、防災に関する実ビッグデータを活用して次世代プラットフォームの研究開発を行い、そこから他領域に広げていくことも理にかなっている。

本プログラムは、情報学・農学・医学・防災分野の世界トップレベルの研究者が参加し、分野融合的な学位プログラムを遂行する体制が整っている。また、産学共同講座がすでに設置されており、産業界を巻き込んだ人材育成が可能な体制が整備されている点も評価できる。

大学院全体の改革については、京都大学の将来構想である「WINDOW 構想」において、本プログラムを副専攻の実績に応じて複数学位（主学位、サブ学位）を与える制度への足がかりとすることが構想されており、横断的な大学院システムの全学規模の波及につながることを期待される。

当該分野は、我が国が世界に対して人材育成の面で後れをとっている分野であり、喫緊の対応が求められる。本プログラムを着実に実施し、発展させていくことを期待したい。